

スマート農業導入加速化事業 お試し導入 事例紹介

1 実施年度 令和元年度～令和2年度

2 導入機器 分娩監視システム

【商品名】「モバイル牛温恵」（親機、子機、体温センサー）

分娩予定の7日前に母牛の膈内に体温センサーを挿入し、体温変化を感知し、分娩徴候（分娩の約1日前「段取り通報」、1次破水「駆けつけ通報」）の情報が通知される。

3 事業実施主体

	地域	飼養頭数	お試し後の導入
A経営体	飯田市	繁殖和牛（18頭）	○
B経営体	小海町	繁殖和牛（75頭）	
C経営体	木島平村	乳用牛（フリーストール方式200頭）	○
D経営体	小海町	乳用牛（つなぎ方式106頭）	○（予定）

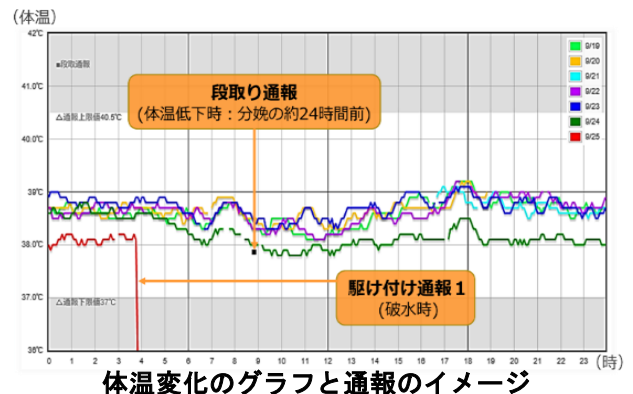
4 実績

(1) 感想、意見（◎良かった点、▲課題に感じる点）

- ◎ 分娩事故が防止され、子牛販売や増頭に繋がり生産性が向上した。
- ◎ 現場に行かずに1次破水の確認ができるため、分娩監視以外の作業に集中できた。
- ◎ 何度も様子を見に行くことがなくなり、夜間でも安心して就寝できるようになった。
- ◎ 分娩確認が遅れると冬期間は低体温症による事故等に繋がっていたが、発生がゼロ。
- ▲ 段取り通報がない場合もあり、センサー感度に改良の余地があるように感じた。
- ▲ センサーの脱落事例（10%）や、駆け付け通報なく分娩した事例（5%）があった。

(2) 収集データからの経営改善効果

- ◎ 分娩監視時間が大幅に削減されたほか繁殖和牛経営では、子牛生産頭数が増加し、売上が増加した。
- ◎ 酪農経営では、分娩直前に発熱を伴う疾病が発生した場合は、SOS 通報が通知されたため治療を行うことができ、経済損失を回避できた。



	監視時間	分娩事故等の状況
A経営体 自宅⇄牛舎 25分	380分→20分 /頭 【95%削減】	20%→0% 子牛3頭を、去勢販売（2頭）と後継牛へ 【150万円相当の売上増加、69万円相当の損失回避】
B経営体 自宅と牛舎は隣接	80分→20分 /頭 【75%削減】	2%→0% 子牛1頭を、後継牛へ 【69万円相当の経済損失を回避】
C経営体 自宅と牛舎は隣接	140分→20分 /頭 【85%削減】	乳房炎により発熱した経産牛1頭を発見 12月～1月の誕生子牛の低体温症を回避

※【】内は、園芸畜産課による効果の試算

5 お問い合わせ先

農政部園芸畜産課 畜産振興係（スマート農業担当） 電話：026-235-7233（直通）